

平成30年度 学校経営計画・学校評価

高知県立山田養護学校

<p>《高知県の教育の基本理念》</p> <p>(1)学が意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材</p>	<p>《取組の方向性》</p> <p>(1)チーム学校の構築 (2)厳しい環境にある子どもたちへの支援 (3)地域との連携・協働 (5)生涯学び続ける環境づくり</p>	<p>《目指すべき姿》</p> <p>学校像 児童生徒像</p>	<p>(1) 高知県東部地域における唯一の特別支援学校として、知的障害のある児童生徒の生活自立と社会自立を目指す一貫した教育を行う。 (2) 障害のある児童生徒の健全な育成を目指し、地域・医療・保健・福祉・労働等の機関との地域連携に寄与する。 (3) 特別支援学校のセンター的機能を目指し、地域の特別支援教育の発展と充実へ寄与する。</p> <p>(小学部)①健康な体づくりができる児童、②基本的な生活習慣を身に付けた児童、③友達や集団との関わりの中で共に育ち合う児童、④いろいろなことへの意欲を高め、主体的に活動する児童 (中学部)①健康の保持増進、体力の向上を図る生徒、②基本的な生活習慣の確立ができた生徒、③様々な生活体験や集団活動を通して、社会生活に必要な基礎的な力を身に付けた生徒、④主体的に人や物と関わる経験を積み、働く力の基礎を身に付けた生徒 (高等部)①社会生活に必要な体力の増進及び健康を維持・管理する力を身に付けた生徒、②基本的な生活習慣や社会性を身に付け、豊かな人間性のある生徒、③社会生活に必要な知識、技能、態度を身に付けた生徒、④働く意義を理解し、働く意欲のある生徒</p>	<p>平成29～31年度までの中期目標</p> <p>○柱Ⅰ キャリア教育の視点を重視した授業改善 ・小・中・高等部の授業交流 ・生活単元学習の授業改善</p> <p>○柱Ⅱ カリキュラム・マネジメントによる教育の質的・継続的な向上 ・一貫性のある各種指導計画等への改善と実施 ・系統性のある教育課程の改善に向けた組織的な取組</p> <p>○柱Ⅲ 地域と連携した南海地震対策の推進 ・スクールバスの南海地震対策 ・広域福祉避難所の設置・運営に関する校内体制の整備</p> <p>目 向 指 け す た け 組 ま の 概 要 に</p>
---	--	--------------------------------------	--	---

《重点取組項目》 ※評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:不十分) ※アンケート結果:①そう思う ②少しそう思う ③あまり思わない ④思わない ⑤わからない ※年度末評価欄のアンケート結果は教員のみ、学校関係者評価は、児童生徒、保護者の回答である。

項目	目標【P】	評価指標	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
<p>（柱Ⅰ キャリア教育の充実）</p> <p>（1）小・中・高等部の授業交流を通じた学習の取組を推進する。</p> <p>（2）防災教育を中心とした生活単元学習の授業改善を図る。</p>	<p>○全教職員が他の学部等の授業に入って、授業体験を行ったか。 (授業体験実施率:100%)</p> <p>○挨拶を含めた基本行動を定め、全校的な取組を推進したか。</p> <p>○単元系統表に基づいた生活単元学習が行えたか。 ○地域と連携した防災教育が実施できたか。</p> <p>○授業改善につながる校内研究の推進体制の改善が図れたか。</p>	<p>○授業体験期間を設定する。 ○授業体験シートを作成する。</p> <p>○全校統一の挨拶の仕方を決める。 ○教職員も含めた取組に位置づける。</p> <p>○防災教育全体計画を作成する。 ○防災教育を中心とした、各学部等での「地域とつながる」生活単元学習を実施する。 ○H29年度に検討・作成した学習指導案を活用した授業を行う。</p> <p>○年度初めに研究方針、研究計画(実施方法)を周知する。 ○新様式による学習指導案での公開授業研究を実施する。 ○校内研究、学部研究、学年研究などの再構築を行う。 ○若年教員を研究発表者に充てることを廃止する。</p> <p>○上記の校内研究体制の改善に基づいた「実践的防災教育推進事業」における研究発表を行う。</p>	<p>・授業体験の取組方や授業体験シートを9月職員会で周知し、10月、11月、2月に全教員一人1回の授業体験を行う。</p> <p>・全校統一で取り組むテーマを「基本行動が身に付く児童生徒の育成」に決定。挨拶、身だしなみ、掃除の3本で取り組むことを9月職員会で周知した。</p> <p>・校内研究の進め方(生活単元学習の研究授業及び授業研究の取組も含む)を周知した。 ・防災教育全体計画及び単元系統表を作成し、周知した。</p> <p>・防災学習を共通テーマに、小中高等部の縦割りグループで授業改善の視点に沿った研究協議ができた。 ・校内で全教員を対象に全体研修会2回、グループ研修会1回を実施し、各学部の研究発表を行った。</p> <p>・12月14日の研究発表会に向けて、実施要項を作成中。</p>	<p>・授業体験を通して他学部の様子が見えたが、日程調整、手続き、打ち合わせ等が複雑であった。教員の授業体験58%、寄宿舎指導員の参観授業96%(2月14日現在)</p> <p>・授業体験(他学部の取組の理解につながった) ①21.4%②50%③17.9%④10.7%</p> <p>・本年度、まだ基本行動の学部ごとの取組目標及び内容を提示することができていないが、掃除については、学部ごとに時間を設けて、見直しをもって取り組んでいる。</p> <p>・学習指導案、指導案様式の統一、防災学習の単元系統表及び年間指導計画に基づき、小・中・高等部が計画的に防災学習に取り組んだ。各学部ともに4単元以上の実施を目指して取り組めた。 ・単元系統表の活用(活用した防災学習に取り組んだ) ①56%②35.7%③7.1%④1.2%</p> <p>・全教員を対象に小・中・高等部の縦割りグループで、各学部3回、防災学習の授業改善の発表を行った。発表後には、①児童生徒の実態把握把握に基づいた、目標設定 ②児童生徒の授業全体の内容理解 ③児童生徒の活動理解 ④児童生徒の目標の達成 ⑤教材、教具の使用、提示のタイミングについて協議を行い、協議内容を次時の授業につなげるPDCAサイクルに沿った授業改善ができた。 ・校内研究での授業改善の研究協議(授業改善につながった) ①25%②53.6%③17.9%④3.6%</p> <p>・12月14日に高知県実践的防災教育推進事業の一環で防災教育実践発表会を実施し、小・中・高等部の取組を発表した。全校で防災学習の公開授業及び研究授業に取り組み、児童生徒の「主体的、対話的で深い学び」につながる授業に取り組めた。</p>	<p>・基本行動が身に付くことは、大事なことであり、取組を進めてほしい。</p> <p>・中学部3年生では、毎日の連絡帳に「挨拶」、「身だしなみ」、「掃除」の評価欄があり、チェックすることで、生徒が意識して取り組めるようになってきた。</p> <p>・児童生徒アンケート結果(自分から挨拶ができています) ①67%②19%③5%④2%⑤5%</p> <p>・児童生徒アンケートの結果(先生は掃除の仕方を教えてくれている) ①81%②11%③1%④2%⑤5%</p> <p>・単元系統表に基づいて、小学部から高等部まで計画的に防災学習に取り組んだことが分かった。</p> <p>・年々教育現場は、採用者や再任用者が増えている。今回作成した防災学習の単元系統表を活用することで、誰もが一定の基準を満たす指導を行うことができるといふ素晴らしいものがあった。</p> <p>・研究授業、公開授業を参観した。防災の授業は、具体的に生活に生かせる内容が多く、指導の工夫が随所に見られ、感心した。</p>	<p>【学部間の授業交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員が参加できる授業交流の仕方を考える。期間の設定、日程調整、手続き、事前の打ち合わせなどを検討する。 <p>【基本行動の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程検討委員会では基本行動の指導の進め方について計画的に検討を行い、教職員に周知していく。 ・教育課程検討委員会のプロジェクトチームで「挨拶」、「身だしなみ」、「掃除」について小・中・高等部の系統性、継続性を考慮した学習目標及び取組内容を作成する。 ・基本行動の評価を適切に行うための基準を作る。 ・基本行動の指導、定着を図るための指導方法を検討する。 ・教職員の意識を高めるための研修会を実施する。 <p>【校内研究の推進体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末(3月22日)に防災学習の単元系統表を活用した授業改善に関する研究のまとめを行う。また、単元系統表の活用について再度周知するとともに、次年度の研究の方向性について、全教職員に周知する。 ・「地域とつながる」生活単元学習を教育課程に位置づけて取り組んでいくためにも、他の単元に広げて単元系統表を作成していく。 ・防災学習の授業改善で協議した授業評価の観点から授業評価シートに取り入れる。 	
<p>（柱Ⅱ 専門教育力の向上）</p> <p>（1）一貫性のある各種指導計画等を改善し実施する。</p> <p>（2）系統性のある教育課程の改善に向けた組織的な取組を行う。</p>	<p>○個別の指導計画と通知表の一本化が図れたか。</p> <p>○個別の指導計画と日々の授業のリンクが図れたか。</p> <p>○全学部・全学年を貫いた防災教育に関する単元系統表及び年間指導計画が策定できたか。</p> <p>○小中高等部の防災教育を計画的に生活単元学習の中で実施できたか。</p>	<p>○各種指導計画等の実施手順、様式を決定し、周知する。 ○個別の指導計画と通知表を一本化し、全校で実施する。</p> <p>○個別の指導計画と立てた学習目標の達成を目指して、日々の授業の中で反映した指導を行う。</p> <p>○防災教育に関する単元系統表及び年間指導計画を作成する。</p> <p>○防災教育に関する単元系統表に基づいた各学部ごとの計画的な生活単元学習を実施する。 ・個別の指導計画の年間指導計画の中に単元計画を明記し、確実な実施を図る。</p>	<p>・個別の教育支援・指導計画の実施手順を周知した。高等部3年以外、個別の指導計画と通知表を一本化した。</p> <p>・学習指導案に個別の指導計画の学習目標を学習指導案に反映させている。 ・反映させている ①52.4%②42.9%③3.6%④1.2%</p> <p>・防災教育の単元系統表の完成。 ・各学部ごとに単元系統表に基づいた年間指導計画を作成することができた。</p> <p>・単元系統表、授業前後のチェックシート等の活用 ①39.3%②45.2%③14.3%④1.2%</p> <p>・全学級が防災学習を年間指導計画に明記し、学年平均小学部6時間、中学部3時間、高等部1.7時間(9月末現在)の授業を実施している。</p>	<p>・個別の指導計画と通知表の一本化で、学習目標、手だて及び成果と課題のつながりが明確に記載できるようになった。</p> <p>・個別の指導計画と通知表の一本化(目標を意識した評価につながった) ①36.9%②46.4%③13.1%④3.6%</p> <p>・単元系統表及び年間指導計画に基づいた授業計画を立て、学習目標及び指導ポイントをおさえた授業を行い、評価基準に沿った授業分析ができるようになった。</p> <p>・単元系統表、授業前後のチェックシート等の活用 ①39.3%②45.2%③14.3%④1.2%</p> <p>・全学部で個別の指導計画に単元計画を明記し、単元系統表の指導10項目に沿った取組を行った。小学部は、平均4項目、中学部は平均3項目、高等部は平均2項目(12月末現在)の単元を実施した。</p>	<p>・学校の教育支援計画に基づき、毎日の集団生活を通して個々の子ども達が目標をもって学校生活を送ることができるよう個別の指導計画を立てている。教職員は個別の指導計画を共通理解したうえで取り組んでいると思うが、保護者の意識を高めるためにも個別の指導計画に基づいた指導を行うことは大切なことである。</p> <p>・個別の指導計画と通知表の様式が統一されたことで、切れ目のない支援や統一された指導が行われることを期待したい。</p> <p>・個々の子どもの状態に合わせて指導をしてきており、子どもができることが増えてきた。</p>	<p>【各種指導計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画(長期目標)と個別の指導計画、個別の生活支援計画(短期目標)のつながりが分かる記入の仕方を考える。 ・寄宿舎の生活支援計画に児童生徒の個別の教育支援計画の長期目標を記載し、寄宿舎での1年間の目標と関連付ける。 ・個別の指導計画の目標と学習指導案の目標のつながりを明確にした学習指導案を作成する。 <p>【保護者への各種指導計画及び通知表の配付方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郵送後に受領書の返答がないことがあるため、受取確認の方法を検討する。 <p>【防災学習の単元系統表の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に基づき小学部6年間、中高等部各3年間の中で指導10項目の防災学習に取り組めるよう年間指導計画を立てる。 	
<p>（柱Ⅲ 地域と連携した南海地震対策の推進）</p> <p>(1) スクールバスの南海地震対策を行う。</p> <p>(2) 広域福祉避難所の設置・運営に関する校内体制の整備をする。</p>	<p>○様々な状況を想定した避難訓練の実施ができたか。</p> <p>○実践的防災教育推進事業による効果的な防災教育が行えたか。</p> <p>○4市町による広域福祉避難所の設置・運営訓練が円滑に実施できたか。 ○校内体制の整備が進んだか。</p>	<p>○山田せんだん安心メールを登録する。 保護者80%、教職員100%の登録 教職員 81名 55% ○ハザードマップを完成させる。</p> <p>○広域福祉避難所設置・運営マニュアルを作成し、教職員の役割分担を明確にする。 ○広域福祉避難所設置・運営訓練を実施する。 ○特に、寄宿舎指導員の対応力を上げる。</p>	<p>・スクールバス高知コースの運行経路上での避難訓練を実施した。(7月6日) ・山田せんだん安心メールの登録状況(9月29日現在) 保護者139名(延べ人数)75% 教職員 81名 55% ・ハザードマップは作成中で、掲載する基礎データの収集は完了した。</p> <p>・広域福祉避難所開設・運営訓練(11月22日)に向けて実施計画及び実施要領を作成した。児童生徒の学習活動、教職員の役割を明確にし、準備を進めている。</p>	<p>・スクールバス高知コース、安芸コース、室戸コースの運行経路上での避難訓練を各1回ずつ実施した。</p> <p>・訓練が児童生徒の防災意識の向上につながった ①35.7%②53.6%③9.5%④1.2%</p> <p>・山田せんだん安心メールの登録状況(2月12日現在) 保護者149名(延べ人数)約81% 教職員84名(延べ人数)約60% ・ハザードマップはほぼ完成した。</p> <p>・広域福祉避難所開設・運営訓練及び全校児童生徒による防災体験学習を11月22日に実施した。運営者と避難者の立場が理解できる訓練だった。また、児童生徒が主体的な役割をもって訓練に参加できた。</p> <p>・児童生徒、教職員の広域福祉避難所の理解が深まった。 ①29.8%②60.7%③8.3%④1.2%</p> <p>・9月7日に地域と連携した津波合同避難訓練を実施した。 ・取組を通して地域とつながる防災教育を行えた。 ①41.7%②54.8%③3.6%④0%</p>	<p>・今後も訓練を継続し、地域との連携を強化してほしい。</p> <p>・保護者アンケートの結果(学校の防災学習は役立っている) ①64%②27%③3%④2%⑤4%</p> <p>・保護者アンケート結果(地域と連携した防災の取組ができています) ①63%②28%③3%④0%⑤6%</p> <p>・山田高等部学校への津波避難訓練や高校生津波サミットでの生徒発表など素晴らしい取組ができた。</p> <p>・保護者アンケートの結果(山田せんだん安心メールは役立っている) ①70%②20%③3%④1%⑤6%</p> <p>・災害時に子どもが避難所で生活することは困難だと考えていたが、学校での防災学習を経験し、家庭でも子どもが防災に関する話をするようになった。災害に対する関心が高まってきているので、これからも継続した取組をしてほしい。</p> <p>・保護者アンケート結果(保護者の防災意識が高まった) ①62%②29%③4%④0%⑤5%</p> <p>・一般市民にスクールバスであることが分かるように、マークを掲示してほしい。</p>	<p>【スクールバスの避難訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施時間、場所、関係機関への協力要請、避難の仕方などの検討を行う。 ・避難訓練に関わる教員が限られているため、訓練後の成果や課題の周知の仕方を検討する。 ・避難訓練マニュアル及びハザードマップの活用に関する周知を行う。 <p>【津波避難訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携を拡げる。 ・年1回実施の継続を図る。 <p>【広域福祉避難所開設・運営訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回校内で実施する。寄宿舎指導員と地域住民の協力関係を築く。 	
<p>（業務改善設定項目）</p> <p>平成29年度の業務改善をベースにし、本年度は行事と会議の精選を行う。</p>	<p>○行事と会議の精選を図り、教職員の学校評価アンケートにおける児童生徒と向き合う時間が増えたと感じる割合を50%以上にさせる。 (平成29年度=19.2%)</p>	<p>○学校行事の精選 ・各学部、学年、分掌部等が実施している行事の現状を把握する。 ・行事内容の重なりを確認し、統合できるかどうか検討する。 ・PTAと連携して実施時期、開催規模(全校・学部・学年・学習集団別)、参加体制、目的の整理を行う。 ○諸会議の精選 ・年間行事予定に記載されていない会議の内容、現状を把握する。 ・議題内容の重なりを確認し、統合できるかどうか検討し、不必要な会議はやめる。 ・会議の目的、設定時間やゴールを明確にし、遵守する。 ・会議資料の事前配布を行う。</p>	<p>○学校行事の精選 ・学校・学部行事の実施日及び実施期間を把握した。 ・PTA役員会にて行事の精選についての意見交換を行った。精選の取組に当たっては、臨時的役員会を開催し、保護者の合意を得ながら取り組むことを確認した。 ・教職員対象の学校行事の精選に関するアンケートを実施した。 ○諸会議の精選 ・諸会議の精選の仕方について協議中である。</p>	<p>○学校行事の精選 ・教職員を対象に学校行事に関するアンケートを実施した。結果を検討し、年次進行で精選を行っている。 ・平成31年度体育館非構造部材等耐震化工事が、8月～2月末まで行われるため、運動会、学習発表会等の学校行事の在り方については、年度末までに検討が必要である。 ○諸会議の精選 ・職員会議は、「提案事項」、「報告事項」、「当面の行事等」に提案内容を分けることで、協議時間の短縮を図った。資料はタブレット端末機を活用し、ペーパーレス化を進めた。 ・職員会議の取組は、業務改善につながった。 ①39.3%②39.3%③11.9%④9.5%</p> <p>※本年度、行事と会議の精選が十分にできておらず、児童生徒と向き合う時間が増えたとは言えない状況である。そのため、学校評価アンケートに「児童生徒と向き合う時間が増えたと感じる」という設問を設けなかったため、適切な評価はできなかった。</p>	<p>・学校行事のアンケート結果に基づいた取組を進めていくことが大事である。</p> <p>・行事を減らすことだけでなく、内容を吟味し、日頃学んでいることを発表することで、子どもが安心して取り組める状況をつくるのが大事である。そのことは、教職員の負担軽減にもつながる。行事への参加の仕方、子どもにとって安心して取り組める内容を考える。</p> <p>・職員会議の見直しを図ったことは、仕事の効率化や子どもたちと向き合う時間の確保につながっているとは言いがたい。</p>	<p>【学校行事の精選】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果に基づき、精選する行事を絞る。 ・行事の取組内容や取組方を見直す。 ・計画的に年次進行で精選を行う。 <p>【諸会議の精選】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議のルールをつくる。 ・会議の開催及び内容検討を行う。 ・定期的な会議は、年間計画に基づいて行う。(臨時に行う会議を減らす) 	